
口頭発表**[B] 分類・形態・組織**2024年3月29日(金) 09:00 ~ 11:30 B会場 (萩)

09:15 ~ 09:30

[B-02]日本産チャバネヒメカゲロウ属*Micromus* (アミメカゲロウ目, ヒメカゲロウ科)に関する新知見○富永 豪太¹、中村 剛之² (1. 岩手連大、2. 弘前大・白神センター)

チャバネヒメカゲロウ属*Micromus*は世界から約100種、日本から9種が記録されている分類群である。このうち、オキナワチャバネヒメカゲロウ*M. igorotus*は国内では沖縄本島で雌が1個体採集されたという情報しかなく(Nakahara, 1956)、詳しい生息地や発生時期はこれまで知られていなかった。演者らは沖縄本島から本種の雌雄を再確認し、国内での生息地と発生時期を明らかにすることができた。また、雌交尾器の記載が不十分であったシロタエヒメカゲロウ*M. dissimilis*、コチャバネヒメカゲロウ*M. angulatus*、タカネヒメカゲロウ*M. paganus*について、雌交尾器を詳細に観察し図示した。さらに、6種のmtDNAのCOI領域について、近縁な*Nusalala*属、*Megalomina*属の各1種を含めて分子系統解析を行った。その結果、別属のこれら2種を入れ子状に含んだ系統樹となり、日本産チャバネヒメカゲロウ属は単系統性を示さなかった。本報告では、これらに加え、日本における各種の分布情報など、日本産の本属についてこれまでに得られた知見を報告する。